

<立教大学図書館貴重書展示>

多彩なる聖書の世界

～^{とき}時代を超え、^{ことば}言語を越えて紡がれてゆく書物～

聖書ほど多くの言語に翻訳され、繰り返し改訳が試みられた書物は他に類を見ないでしょう。ウィクリフ聖書翻訳協会によると、何らかの形で聖書が翻訳されている言語数は4,000を超えると言われています。およそ1,500年におよぶ書物の歴史において正確な総部数を把握することは困難ですが、聖書はギネス世界記録公式の「最も売れたノンフィクション本(Best-selling book of non-fiction)」にも認定されています。聖書という書物が辿ってきたこうした翻訳と普及のプロセスは、単なる宗教の伝播に留まらず、各民族の言語の文字化や文学、芸術、さらには社会制度や文化形成の基盤を構築する上で極めて大きな役割を果たしてきました。同時に、活版印刷をはじめとするメディアの歴史をも大きく動かしてきた「知の源流」とも言える存在です。

今回の常設展示では、当館の貴重書コレクションの中から、歴史的・学術的に価値の高い聖書の数々を特別公開いたします。中世のキリスト教美術を代表する極めて美しい装飾写本『リンディスファーンの福音書』をはじめ、紙面への強い押圧（エンボス加工）によって鮮明な凸文字を実現した触読式聖書、そしてヘボンらによって進められたローマ字表記の初期の日本語聖書などを紹介します。あわせて、アイヌ語など多様な言語に翻訳された聖書も展示します。

言葉を越えてさまざまな形で紡がれ、読み継がれてきた、美しくかつ多彩な聖書の世界とその歴史的・文化的連関を、ぜひお楽しみください。

2026年10月
立教大学図書館

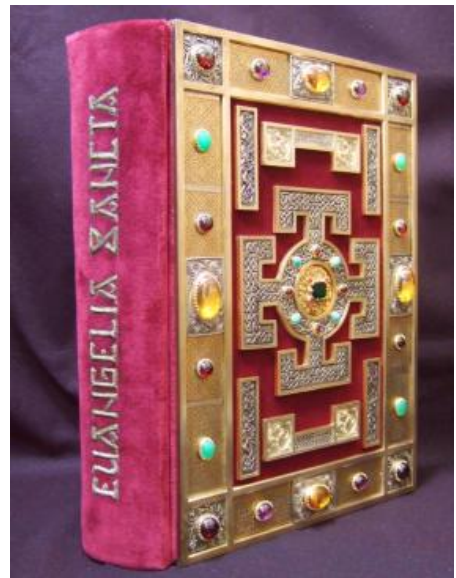
<資料解説>

・ The New Testament of our lord and saviour Jesus Christ = Det Nya Testamentet of vår Harre och Fralsare Jesus Christus

タイトルおよび本文は英語とスウェーデン語の二か国語が併記されており、19 世紀後半にアメリカ聖書協会によって出版された新約聖書の、歴史的な対訳版である。見返しに「Library of Trinity Divinity School」の蔵書票が貼られていることから、本学創設当初の蔵書であることが分かる。

・ Das Buch von Lindisfarne

英国イングランド北東部のリンディスファーン修道院で、698 年頃に制作されたラテン語福音書装飾写本である。『ダロウの書』『ケルズの書』と並んでいわゆる三大写本といわれている。ケルト美術とアングロ・サクソン美術が融合した中世イギリスの写本装飾の最高傑作の一つである。



・ Chikoro utarapa ne Yesu Kiristo ashiri aeuitaknup oma kambi = The New Testament of our lord and saviour Jesus Christ in Ainu

1877 年に来日し、60 年にわたり北海道でアイヌへの布教活動を行うかたわら、アイヌ語・アイヌ文化について広範な研究を行ったイギリス人宣教師ジョン・バチエラーによって翻訳され、1897 年に出版された聖書である。

・ A leaf of the Gutenberg Bible, 1450-1455

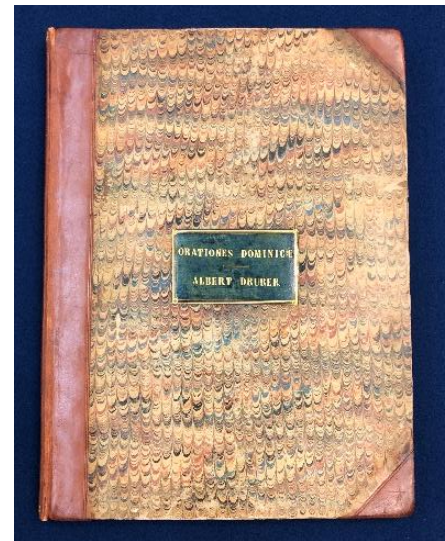
世界三大発明のひとつに上げられる活版印刷術の発明者であるグーテンベルク（Johannes Gutenberg）による世界初の印刷聖書からの 1 枚。本文が各 42 行の二段組で構成されていることから、「42 行聖書」と呼ばれている。

本学所蔵の零葉は庄司浅水旧蔵で、1921 年にアメリカの著名な古書籍商ガブリエル・ウェルズが限定本として刊行したもの。



・ Oratio Dominica polyglotta: singularum linguarum characteribus expressa et delineationibus Alberti Düreri cincta

キリスト教の「主の祈り (Pater Noster)」を世界 38 か国にも及ぶさまざまな言語や文字で翻訳・集成したもの。アルブレヒト・デューラーの挿絵入り。



・ 舊約全書

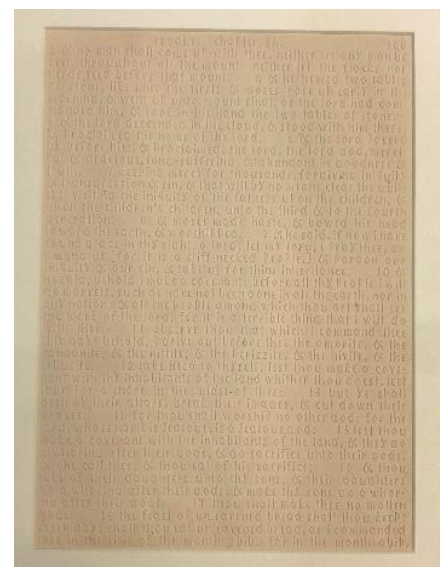
1864～65 年にかけて刊行された中国語(漢字)活字による旧約聖書。板元的美華書館は、米国長老派協会が清の外国人居住区に設立した印刷所で、日本で最初に活版印刷業を営んだ元木昌造が印刷技術を学び、弟子の平野富二が「築地活版製造所」を設立するなど、日本における活版印刷技術の導入とも関わりがある。

・ Warera no shu Iesu Kirisuto no shin yaku zen sho: The New Testament in Japanese

ローマ字聖書は、来日する外国人宣教師たちを対象に発行されたと考えられている。アメリカの長老派教会の宣教師として来日したヘボンによる日本語訳聖書のローマ字表記版。いわゆる「ヘボン式ローマ字」の綴り方や表記法が、ヘボンらの聖書翻訳活動によって体系化され、日本におけるローマ字表記の基礎となったとされる。

・ Original leaves from the Bible in English from the nineteenth century (池袋のみ展示)

アメリカ関係印刷物の有名なコレクターとして知られるマイケル・ジンマン旧蔵の、植民地時代から 19 世紀にかけてアメリカで出版された聖書のオリジナル零葉 38 枚を収録した文献見本帳からのアメリカで最初の盲人のための聖書の 1 頁。現在の点字(ブレイル)ではなく実際のアルファベットをエンボス加工で浮き上がらせた「ボストン・ライン・レター」というシステムが用いられた、浮き出し文字(触読式)の聖書である。



・Bibbia Amiatina: ms. Laurenziano Amiatino 1 : Biblioteca Medicea Laurenziana di Firenze (池袋のみ展示)

世界最古のラテン語ウルガタ訳聖書のファクシミリ版。国内の所蔵館は立教のみ。アマティアヌス写本は、現存する最古のラテン語訳ウルガタ聖書写本のひとつである。8世紀初頭にイングランド北東部で作成され、旧新約聖書のほぼ全巻を含んでいる。書記エズラの肖像 (fol.5r) も、当時のイギリス諸島部で盛んであったヒベルノ・サクソン美術 (いわゆるインスラ美術) よりも、むしろ古代末期の地中海世界の様式に近い。その特徴は、近隣のリンディスファーン島の修道院で制作された『リンディスファーン福音書』(おそらく715~720年に制作) における、福音書記者たちの肖像の構図や服装に影響を与えた。



・The Book of Psalms(新座のみ展示)

The Book of Psalms (英米盲人の為の聖詩編)は庄司浅水コレクションの一つである。アルファベットをエンボス加工で浮き上がらせた触読式聖書で、凸起がきわめて鮮明である。



・Peep-show, a.k.a. miniature theater: The garden of Eden(新座のみ展示)

1730年頃にドイツの著名な版画商・彫刻師エンゲルブレヒト兄弟が作製したミニチュア・シアターシリーズのひとつ。6枚の手彩色銅版画を展示箱に順番に配置することによって、奥行きのある風景が表現されている。



<関連用語解説>

・Trinity Divinity School(東京三一神学校)

立教大学の創設者であるチャニング・ウィリアムズ主教によって、1877 年に築地で設立された神学校。現在の立教大学のルーツ(同主教により 1874 年に築地に私塾として開講)と深く関わる。

・『ダロウの書』 Book of Durrow

7 世紀後半～8 世紀初頭ごろにアイルランドで製作された聖書のケルト装飾写本。16 世紀までアイルランドのダロウ修道院に保存されていたことから『ダロウの書』と呼ばれる。インスラ体で書かれた福音書の装飾写本の中では現存する最古のものと考えられ、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの 4 つの福音書から構成されている。

・『ケルズの書』 Book of Kells

8～9 世紀ごろに製作されケルズの旧修道院付属教会堂に伝わった中世初期の聖書の写本。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書が収められている。スコットランドやアイルランドの修道士たちの手による美しいケルト装飾が施されている。ダブリンのトリニティー・カレッジ博物館が所蔵。

・庄司浅水 Shoji Sensui(1903–1991 年)

書物研究家・蒐集家かつノンフィクション作家としても活躍。

庄司浅水が生前に蒐集した書物はキリスト教史の研究資料としてはもとより、書物史・美術史・印刷文化史の資料としても極めて貴重なものである。(本学図書館では、庄司浅水が蒐集した写本・古版本聖書のオリジナル資料を中心に、ヨーロッパ・アメリカ・中国・日本で刊行されたキリスト教文献を所蔵しており、立教大学図書館デジタル・コレクションにて公開中である。)

・アミアティヌス写本 Codex Amiatinus

全巻が1冊にまとめられたラテン語聖書としては、現存する最古のもの。716年にノーサンブリア王国にあったウェアマウス・ジャロー修道院の修道僧によって作られた。アミアティヌス写本は当時作成された3つの写本のうちの1つで、四大ラテン教父の1人ヒエロニムスが訳したとされる「ウルガタ聖書」の最初期のものを、完全に書き写したものの。

・アルブレヒト・デューラー Albrecht Dürer(1471–1528 年)

15世紀末から16世紀初頭に活躍したドイツ・ルネッサンスを代表する画家・版画家。

自分自身を主題とした「独立した自画像」を数多く書き残した。正面向きの肖像画は極めて稀であった時代に、真正面の構図で単独自画像を描いた革新的画家。

<参考文献・ウェブサイト>

- ・翠波画廊 コラム、「近代的自意識を持った最初の画家～版画を売りまくったアルブレヒト・デューラーの孤独」

<https://www.suiha.co.jp/column/zigazonikodawattanarusisutonogakatoha/>

- ・日本聖公会東京教区、「東京教区 草創期のあゆみ」

<https://www.nskk.org/tokyo/about>

- ・立教大学図書館 庄司浅水デジタルコレクション、「英米盲人の為の聖詩編」

https://library.rikkyo.ac.jp/digitallibrary/shojicollection/contents/con_05.html

- ・立教大学図書館 常設展示

<https://library.rikkyo.ac.jp/archives/exhibition/exhibition1/>

- ・Christian Today、「世界最古のラテン語聖書、来年英国に帰還へ 1300 年ぶり」

https://www.christiantoday.co.jp/home/news/services/print.php?article_id=24896

- ・JapanKnowledge Lib (ジャパンナレッジ Lib) (立教大学図書館契約)

<https://japanknowledge.com/library/>